



Challenge Everything

～ 持続可能で心豊かな未来への貢献 ～

第4回

男女共同参画オンラインセミナー&茶話会

～YEG WOMEN'S エンパワーメント プログラム～

2023.12.18開催

ーリポーター
茶話会女性グループ



セミナー

講師：特定非営利活動法人ウィメンズアイ 代表理事 石本めぐみ 氏

テーマ：「ローカル×デジタル×ジェンダー」

—感想—

高知は11位に消滅都市としてあげられており、危機感を持ちました。若年の女性が減少しているのもわかります。娘も大学は都心の方へ行きます。**魅力あるまち作りや、働く場所や環境作り**を活動の中でしていけないといけなと感じた。

消滅都市について 小松は消滅都市にあがっていないが、両サイドの市が消滅都市と言われている。

となると、小松も今と同じようには存続できず消滅する可能性があると危機感がある。

郷土愛という話の中で、その場所に居続けるためにはやっぱりお金を稼がないといけない。**働く場所やコミュニティ**は消滅都市にとって必要不可欠だと思う。

フリートークご意見集

複業について どのように考え、社内ではどう扱っているのかというご質問がありました。

→返答内容

- ▶採用に関しては男女とも自由をのぞむ傾向があり、委託という契約にし複業に関しても自由にしている。ただし業務内容、報酬などの取り決めは、話し合い契約をかわして実施している。
- ▶サービス業という仕事柄、社員に複業を許可するのは難しいと考えている。
- ▶職種によるのではないか。
- ▶推進をしている。理由は、フレキシブルに動きたい、チャレンジをしたいという思いがあるので尊重している。それにより、社員から個人事業主になり、仕事も依頼しながら一生のお付き合いができています。
- ▶デジタルの力、**デジタルがあるからパラレルキャリアを推進できている。**
- ▶割と周りを見ても融通がきき、パラレルキャリアを推進している企業は多いと感じる。
- ▶可能性が開けると考えており、比較的自由に認めている。いずれにしても、**男女の差が無くお互いに対話したり柔軟性が大切である。**

男女共同参画の事業を群馬県連で行いましたが、4月から企画するにあたって、やっぱり男女共同参画でちょっと女性をメインよりの事業をやろうとすると、男性側が怖い女性に噛みつかれるんじゃないかっていうスタンスで、早くも戦闘態勢の男性もやっぱり何人かいました。企画をする委員会には、20人ぐらいいる中に、そもそも女性は一人しかいませんでした。実際に事業としては200人近くの方に集まっていたけど、成功として終わりましたが、やっぱり一番難しいと感じた事は、男女共同参画の事業ではあるが、女性の参加率が約10%ぐらいであった。グループディスカッションを設け、23卓テーブルがありました。テーブルあたりの女性は一人ぐらいしか配置できなかった。**男女共同参画を語るテーブルに上げるためにもうちょっと女性の参加率が必要である。**

新聞で桐生市の男女共同参画委員会を立ち上げましたよとかそういう話はよく聞きます。

子どもを連れての事業や会議の参加に関して。そもそも子供をつれて参加したいという訳でないことを理解いただきたい。もしもの時や連れて行かざる得ない時は、**その環境は有難いが根本の思いは違う。**

フリートークご意見集

不動産業ですが、男女比率は半々ぐらいになり、以外と女性が多く働きがちな業界ではあるので、**職場では逆に男性スタッフに育休を取らせることを今頑張っています。**

お菓子作りの仕事ですが、ほとんど女性のスタッフです。独身か、もう20歳以上のお子さんいらっしゃるかどうかのスタッフが多い中私だけが子育てをしながら経営しているというところでなかなかこう学校の行事とかそういうのに合わせるのにちょっとこう苦戦してるんですけど、やっぱりその子育ての環境では協力体制があって事業もできています。**育児、事業との両立はやはり難しく、その子育てに対する理解っていうのがやっぱり一番とても重要になってくるんじゃないかなっていうのを本当に痛切に感じています。**賃金アップで働いて頂ける環境ではなく、いう中で動いてますが、平等に24時間ある中で通常8時間労働し、賃金を支払うのではなく、例えば六時間労働でも同じ賃金払いますと集中して仕事をやりましようと思えます。少し短い時間に集中して働く事で、結論稼いだお金は同じでも、使う時間としては、短くなるので、体を休める時間や家事に専念する時間も増えると思えます。無理して働くのではなく、持続可能な働き方が継続や意欲に繋がるのではないかと感じています。

会社をどんどん大きくしていくために、正社員になってほしいと言う、すごいいい人材がいても、私は旦那さんの扶養でいたいからとか言われるとああそうですよねとなります。

大学を経て出産して働こうとしたら、すごく働きにくく女性だったら時間取るの当たり前でしょ？みたいな感じとか実際に就職してからも、女性に向いてない仕事だよみたいなことをすごい言われました。私はライターですけども、実際に取材に行くとかは、現地行かないといけないので、これは動きとしてあるけど、記事書く事は、どこでもできるので、子供が起きる前、お昼寝しているとき夜中とかで8時間取れるよなっていうのっ正直すごく思っています。まだ社員三人で私、男性社員とすごい若手が一人とかなんで、実際にあれなんですけどももうなんかページでこないといけないみたいなのを返そうと思って弊社ではコアタイムなしの8時間勤務していなくていつ来ていつ帰ってもいいようにしています。そうすると私もそうですけど、男性職員とかもそういうのを利用して子ども病院連れてってから来るみたいなのを普通にやっています。**子育てしやすい環境って、女性だけにとってのメリットっていうわけでもないのかなっていうのは実際運営してみて思いました。**

豊田市なので人口減少とかはなく、トヨタという大きな企業がある市になるので、少し環境としては特殊な方かもしれません。でもそれはそれで少し課題があると、私は感じています。私の会社は、従業員さんが女性ばかりの会社ですが、やはり**扶養内で働きたいという方が多い地域で、旦那さんがトヨタの方がほとんどの地域なのでそういう環境の下で子育てしながら働くっていう方が本当に多い地域になります。なので、パートという形態で、働いてくださっています。**社内の問題としては、女性がたくさん働いてくださっているので、一応女性が働きやすい会社を目指してはいますが、上を目指そうという方がほとんどです。